

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護三和	管理者	廣川 丈人

法人・事業所 の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるよう生活(介護)をお手伝いします。」の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした支援に努めています。人に優しい町(まち)づくりの考えが、地域に根(ね)を張り、広がっていくようにとの願いを込め、月1回「まちなね」活動を開催しています。
---------------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	1人	1人	1人	0人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所の目標について各項目に対し担当者を設置し、目標達成に向けて意識的な取り組みを実施する。 定期的な担当者との面談を行い進捗状況を確認していく。	ご利用者の不安、問題点については継続的に取り組めるよう、普段から情報共有を毎日使うタブレットを利用することで、継続と解決が明確化できている。新規の人に關しては不安を解消するために、具体的にどのような対応が必要なかをミーティングで共有する事で、不安を解消する意識を共有できた。 面談を定期的に行う時間の確保が難しく、適宜進捗状況を確認しながら対応していった。	・新規利用者や家族の不安解消に向けた対応等についてのミーティングはどのようなタイミングで開催されるのか ⇒ 毎日行われているミーティングにて取り上げております。 ・「今回の自己評価の状況」欄の評価が低いように感じる。「ご本人への理解を深める」ためには具体的にどのような取り組みが必要か。「できていない点」をもう少し深掘りして改善点を明らかにしたほうが、目指すべき所を共有しやすいのでは。 ・まずは、民生委員も含めた地域資源の把握に向けた具体的な取り組み(例えば、地域資源マップの作成等)を行ってみるのもよいと思う。 ・運営推進会議においては、事業所が地域とどのような関わりができるか等について、とても有意義な話し合いができています。介護職員に運営推進会議に参加してもらいながら、地域との関わりを一緒に考えてもらうのもよいのでは。	各個人が事業所における目標を踏まえ、具体的に行えている事の共有と、行えていない事を明示し、職員間で同じ意識を持てるようミーティングを活用し取り組んでいく。 まちなね(地域交流イベント)の再開、地域の会合への参加を全職員が持ち回り当番として関わる機会を設け、地域との関わりを深める。
B. 事業所のしつらえ・環境	センター内の装飾、立て看板、畑作りを通じ、季節感を味わえるセンターの環境を作りを行う。	サポートセンターの案内を地域に発信し、またこぶし園の広報誌(ネットワークこぶし)を配布するなどを行った。入口の看板は設置したが、台風の大風によって倒れたことで破損し、現在は修復中。 今年度は利用者と一緒に作成した装飾品や雰囲気づくりの為に作品などに尽力していった。 季節感を大切に、利用者の意見を取り入れながら装飾を作成し、以前からの三和独特の雰囲気を壊さず落ち着いて過ごせる、また喜びを持てる装飾を企画した。 結果利用者からは、センターの雰囲気は好評をもらい、自分が関わった作品が装飾されていることから、次回の装飾作成への意欲にもつなげることができている。	・感染症の影響等もあり、2階の事業所の様子を直接拝見することはできなかったが、玄関等から入りやすい雰囲気は伝わった。 ・センター内はとても綺麗にされており、季節感も感じられ良いと思う。 ・1階は普段は人がいないと思うので、どうしても静かな雰囲気になってしまうと思う。直接ご相談に訪れる人は入っても大丈夫だろうかと少し不安に感じられるかもしれない。 ・道路に面したピンクの看板はとても目立ちアピールになっていると思う。ただサービスに関係のない方(サービス業者も)は何をすところかわかりにくいと思う。室内は飾りつけなど季節にあったもので雰囲気が良いと思う。	サポートセンター三和がどのような施設なのかを理解してもらえよう、地域へのアピールと地域交流を進んで行えるよう、畑作りを一緒に行える取り組みを行う。 1階地域交流スペースに訪れやすい空間づくりを行う為、立て看板を随時改善していく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>サポートセンター三和が訪れやすいような雰囲気づくりに努める。 掲示板や広報誌を活用し相談しやすい事業所であると認識できるよう配慮を行い、地域と関われるよう努める。</p>	<p>玄関の立て看板は台風接近により破損してしまったが、代わりの看板や掲示物などで対応を行った。 地域へは小規模三和の事業所紹介を回覧板として配布し、少しずつ小規模三和及びサポートセンター三和を認識できるよう行った。 地域住民との交流の機会は現在まだ検討段階であり、企画も具体的な形まで至っていない。</p>	<p>・入り口前に掲示板等があり、気軽に立ち寄りやすい雰囲気だと思う。 ・先日実際にケースを相談した際に地域住民の方をよく知っていた。日々地域住民と交流をしていることがよく分かった。 ・広報誌の「三和だより」はカラー写真も多くて見やすく、分かりやすい。行事やイベントなど知ることができ、皆さんの楽しさが伝わってくる。 ・地域の人が訪れやすいよう工夫して取り組んでいるが、事業所自己評価の結果からも、認知してもらうことに苦慮されていることが伺える。何かイベントを開催して来てもらう等の取り組みもよいかも。 ・町内の回覧版などを使用し、事業所の特性を伝えることは良いと思う。町内で簡単な体操教室、〇〇づくり教室などの場所を提供し足を踏み入れてもら</p>	<p>サポートセンター三和の雰囲気作りは引き続き行い、事業所を知ってもらえるような取り組み(紹介等)を行う。 まちのねを再開させ、サポートセンター三和と地域との交流機会を増やす。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>各地域の民生委員の方、地区担当者の方と情報共有を行える体制を作り、連絡・相談が出来る体制を作る。</p>	<p>地域住民との交流の機会は現在まだ検討段階であり、企画も具体的な形まで至っていない。</p>	<p>・独居の利用者も多いかと思われるので、民生委員と情報共有・連携が出来ると良いと思う。民生委員を通して、地域へ事業所の周知も広がっていくこともあるのではないかと。 ・資料が詳しく分かりやすく、会議の進行もスムーズです。 ・災害(地震・水害・火災など)は、いつやってくるか分からない。民生委員として個々の方の把握をしっかりと日頃から行っている事が重要かと思う。いざという時のためにも地域住民の協力や団結、そして備えや訓練も欠かす事ができません。まずは近所の方、そして町内の班など身近な所から情報共有していきたい事が今後の課題です。 ・個々のケースに応じて、関係者と関わりを持ちながら支援を行っていただけることが伺える。何か特別な事を行わずとも、日頃からの地道な付き合いを続けながら、関係性を構築することも大切かと思う。 ・近くに交番もあり地域との情報共有がしっかりと行えている。 ・世代を超える交流があっても良いのではないかと。近年では身近に年寄りのいない家庭もあるので、保育園などと交流は出来ないか。園児の歌やおゆうぎを見せてもらう。⇒利用者(喜び)⇒園児は発表の場が増える。</p>	<p>地域交流の機会に参加し、サポートセンター三和でのまちのねを通じて交流強化を図る。民生委員、町内会、地域の方とお互いの情報共有体制を作る。</p>

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>会議内で事例を提供し、現在の取り組みや関わりについて様々な立場の視点からの意見を求め支援に活かす。</p>	<p>昨年行えなかった対面での開催を今年度は行うことができ、サポートセンター三和の雰囲気を見えていただくことで、皆様からの意見をたくさん頂くことができました。 また今年度初めて委員になられた方にも、直接サポートセンターをご覧いただけたことで情報が伝えやすい点が多く思われた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が詳しく分かりやすく、会議の進行もスムーズです。 ・地域の困りごと等を情報共有・検討が出来ればと思います。 ・会議へ参加させていただく事で、いろいろな立場の方々から現状を伺ったり、知らなかった事を教えていただいて大変勉強になっております。今後の民生委員活動に役立てていきたいと思ます。 ・会議内で地域連携についての事例紹介等を通じ、地域の人と活発な意見交換ができており、互いの気づきになっていると思います。私自身、毎回勉強させていただくことが多いです。 ・コロナ禍で開催できなかった時とは違い、実際に様子が伺えるようになり、状況などがわかりやすくなりました。 ・民生委員、警察、利用者、サービス業者、様々な立場の人と交流し、話し合える良い機会だと思います。 	<p>運営推進会議にて行う議題に地域での困りごとについて事業所がどのように協力していけるかを委員の方から意見をいただき、反映させていく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>地域の方の協力を得ながら避難訓練の実施を行う。参加できなかった場合も避難訓練の様子を災害時の対応も併せて地域の方へ広報活動を行いサポートセンター三和の災害時の役割について知ってもらう。</p>	<p>新型コロナウイルスが5類へ移行したことで地域の方との交流を再開し始めていたが、避難訓練への参加を行えなかった。また防災訓練の様子を広報誌などで知っていただくことができていなかった。 事業所としては地震と火災についての避難訓練、水害についての防災訓練、職員間の非常時通報訓練を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況だと思うが、運営推進会議の委員もまた避難訓練に参加出来るようになればと思う ⇒ 来年度は参加を呼び掛ける予定 ・避難訓練には地域の方は参加されるのか ⇒ 以前は参加いただいていたがコロナ禍で参加を中止していたが、来年度は企画し参加を募る予定 ・水平避難する場合の避難先はどこか ⇒ 駐車場に避難となる ・しっかりとした行動表ができています。今後私どもも他事業所の訓練を見学したい。 ・いつ災害がおこるか分からないので、定期的に行う事は重要だと思う。 ・1/2の羽田空港における航空機事故でも避難訓練の重要性が報道されている。改めて、避難訓練の重要性を認識した。また、避難所における認知症の利用者への対応等は、センター職員が中心となって運営できるように、行政へ提案してはいかがか。 	<p>年間事業計画で行われている防災訓練について、地域に知ってもらう事と参加を促し、地域住民への災害時のセンターとの関わりについて理解してもらう。 運営推進会議委員の方に防災訓練についての案内を行い、参加、見学頂ける取り組みを行う。</p>